

11/27 金後



現場から

(和田育美)

来年の介護保険改定に向け、安倍政権は議論をすすめています。そのなかでは、負担増・給付減など利用者や家族の暮らしを「破壊」させたものオンラインペーパード。利用者・家族の生活はどうなるのか。現場を見ました。

「ヘルパーさんは本当にうれしかった」と感謝を口にする女性(94)は、「千葉県船橋市で一人暮らしをしています。要介護1の認定を受け、週3回、ヘルパーが来てもらっています。

「ヘルパーさんは本当にうれしかった」と感謝を口にする女性(94)は、「千葉県船橋市で一人暮らしをしています。要介護1の認定を受け、週3回、ヘルパーが来てもらっています。

「毎日ひつ生」女性は「毎日ひつ生」をしています。要介護1の認定を受け、週3回、ヘルパーが来てもらっています。

「日常生活の大さじ」日常の調理や、水の購入、トイレ・お風呂の掃除、布団を干す、冬物のカーペットを出すなどの家事は生活援助としてヘルパーが行います。1割負担で利用しており、月の負担額は6000円前後です。

今まで認知症の症状はなかったのですが、いよいよ今月で「お金が無くなつた」「貸金庫の力がない」と

訴える人が多くなりました。

家族の責任に

女性は「毎日ひつ生」をしています。要介護1の認定を受け、週3回、ヘルパーが来てもらっています。

女性は「毎日ひつ生」をしています。要介護1の認定を受け、週3回、ヘルパーが来てもらっています。

女性は「毎日ひつ生」をしています。要介護1の認定を受け、週3回、ヘルパーが来てもらっています。

女性は「毎日ひつ生」をしています。要介護1の認定を受け、週3回、ヘルパーが来てもらっています。

「介護の社会化」をしき、家族にも迷惑をかけずに生活できるのは、介護保険のおかげ。減額させようとする安倍政権に怒りをぶつけます。「消費税だって上

がって、介護保険料だ

は、援助に入った家の

様子や利用者の言動か

ら認知症の症状に気づき、早期の対応につながるケースがあります。

また、利用者との接し方にも専門的技能が必要です。

声かけが上手

ケアマネジャーの米山留美子さん(52)は、「アロのヘルパーさん

は声かけが上手」と言

います。要介護1、2

で認知症を患う利用者

が「お金がない」と訴

えた際、「共感して安

心できる声かけをしな

いといふ」と話します。

るより。いいかげんにしてもいい」

安倍政権は要介護1、2の生活援助の介護付外しを狙っています。

実施されると、介護保険は「無資格者や、ボランティアでも生活援助を行えるようになります。

調理や掃除を行う生

活援助といつても、家

事をこなすだけではあ

りません。専門職として認知症の人とのかか

わりが多いヘルパーは、援助に入った家の

様子や利用者の言動か

ら認知症の症状に気づき、早期の対応につながるケースがあります。

また、利用者との接し方にも専門的技能が必要です。

手厚い援助があれば

介護予防状態が長く維持できる一方、支援を受けるられなくなれば、

自立した生活維持が困難になり、できなくなるとが増えて、様態悪化

目に見えるといいま

す。「給付外しを「制

度を維持するため」と

政府はいいますから

このままでは国民一人ひとりの健康で文化的

な生活がままならない

ことになる。現場からますます

要介護1の支援



今まで認知症の症状はなかったのですが、いよいよ今月で「お金が無くなつた」「貸金庫の力がない」と